

● 読書感想文コンクール 小学校低学年の部 ●



優秀賞 外川 瞳 (とがわ ひとみ) 散田小 3年生

作品名：「にげだしたてじなのたね」を読んで

図 書：にげだしたてじなのたね

この本は、ひょうばんの手品しのお話です。

手品しは、みんなの前ですばらしい手品を見せていました。でも、本当は手品のたねぼうずが手つだっていたのです。だから、手品し一人だけでは手品ができないのです。

ある日、手品しは王様の前でその手品をひろうすることになりました。

ところが、いよいよひろうが近づいていたとき、手品しとたねぼうずはけんかをしてしまい、たねぼうずはにげ出しました。

手品しは困ってしまいましたが、さいごはたねぼうずと仲直りをして、王様の前ですばらしい手品をひろうすることができました。

この話を読んで、みんなで何かをしようとするときは、自分一人の力でしているのではなく、みんなの力が合わさって初めてできることがたくさんあることに気がつきました。

たとえば、この間の学習発表会の太鼓囃子です。みんな初めての和太鼓で最初は音もばらばらでした。でも何回も練習をくり返し、みんなで心を一つにすることで十三台の和太鼓とリコーダーのお囃子の音をさいごまでしっかりとそろえてえんそうすることができたのです。

この本の手品しのように一人ひとりが好き勝手に太鼓をたたいていたら成功しなかったと思います。

これからも、どんなことでも相手を思いやる気持ちを大切にして、友だちといっしょに協力し合っていこうと思います。

